口腔粘膜病変の肉眼所見からみた細胞像と組織像

九州歯科大学　健康増進学講座　口腔病態病理学分野

矢田　直美

近年，口腔癌に注目が集まり，口腔外科・口腔内科の受診率の増加や口腔がん検診などの普及により，口腔擦過細胞診の需要が増している。口腔癌のスクリーニング検査を行っていく上で，口腔粘膜病変を理解しておくことは重要である。また，臨床像を把握することで口腔細胞診の判定の精度がよりあがる。同じ口腔内の粘膜といえども，採取部位により，舌背部は角化細胞が多く，舌下部は非角化細胞が多いなど細胞像が異なる。肉眼所見では，びらん・潰瘍性病変では，背景に炎症が見られ，中層～深層の扁平上皮細胞が採取され，炎症と腫瘍との鑑別が困難である。白色病変では，主に口腔潜在的悪性疾患に分類される白板症や口腔扁平苔癬が対象となるが，角化型扁平上皮細胞の細胞異型が問題となり，カンジダ感染による異型も出てくることもある。この中には組織像で表層が分化した扁平上皮癌となる症例もあり，報告書の書き方が困難な場合がある。隆起性病変では，上皮内腫瘍なのか，隆起しているため表層粘膜上皮に機械的刺激が加わり，炎症を発生し，反応性異型との鑑別が困難な場合がある。口腔粘膜病変の肉眼所見から見た口腔細胞診新報告様式に準じた細胞像と組織像の特徴を供覧し，細胞診報告書を記載する際の留意点についても言及させていただく。講演後，口腔擦過細胞診の症例を2例呈示予定である。